

朝日新聞
2007年5月24日(夕刊)
※無断転載不可

過去問 66大学相互利用

岐阜大が提唱、来春から

大学入試で過去に出題された問題を互いに利用しよう、岐阜大などが呼びかけていたネットワークづくりに、全国の66大学が08年度入試から参加することを決めた。良質な問題を融通し合うことで、各大学は問題作成の労力を大幅に節約できるという。

参加するのは、国立大23校、公立大10校、私立大33校。「入試過去問題活用宣言」と名づけたネットワークは4月下旬、正式に発足した。これとは別に、他大学の過去問題は使わないが、提供はするという大学も4校あった。

相互利用は来年2、3月の入試から始める。ルールは▽過去問題はそのままでも一部変更しても使用できる▽責任はすべて使用する側が負う▽入試終了後、原本の問題を作成した側へ通知し、受験生にもわかるよう公表する――など。実際に過去問題を使うかどうかは各大学の判断による。

「宣言」は岐阜大の黒木登志夫学長が提唱し、同大を含む17大学が昨年10月、過去問題を公表している全国の408大学に参加を呼びかけた。

過去問題の出題はこれまで、受験生に不公平とされてきた。「宣言」では、過去の優れた問題は「共有財産」ととらえ、相互利用を進める。